

水 泳 協 会

沿 革

(1) 歴 史

幕別町水泳協会は、昭和44年6月に「幕別町水泳同好会」として発足した。昭和40年頃、当時幕別町にプールがなかったので、幕別小学校関係者や町民からもプールを設置してほしいという声が高まり、町でも設置の準備を進めていた様で、こんな折も折、この願いを聞いた現当協会長である平井幸男氏が、その建設資金の一部にあててほしいと町に百万円を寄贈したことからプールの設置も早まったとかで、昭和42年の秋に幕別小学校横に町に初めてプールが完成を見たのである。プールが実際に利用されたのは翌年の昭和43年からである。昼間は小中学生に、夕方からは一般の方に開放され、当プールが幕別市街の中心に設置されるという地の利もあって一般町民の方にも大変利用され、プールは一日中にぎわいを見せたと記録されている。

当時、幕別小学校に、水泳指導員の資格を持った水野先生がおられて、放課後や夏休みなどに子どもたちや父母の方に水泳指導をされていた。父母の方の中に水泳の好きな方がかなりいて、日を決めて練習しようということになり、曜日を定めて練習をしていたが、その内、水泳同好会を作って研修や親睦をはかろうではないかということで、水野先生が中心となり、町教委の本保氏（当時社会体育係長）の応援を得て、平井幸男氏を初代会長に選んで「幕別町水泳同好会」が会員13名をもって発足したのが、当協会の前身である。

同好会の会員は殆ど幕別市街地域の方で占められていたが、その後、水野先生の後を引き継ぎ当協会の理事長である佐藤昇氏が、白人小学校に昭和50年に移動したことから、札内地域の方にも同好会に加入してもらう様働きかけてもらったところ、札内地域の方が10数名加入してくれたことから、同年6月に同好会を「幕別町水泳協会」と改め、こゝに正式に当協会が誕生を見たのである。

昭和45年には、当プールを会場として、町教委主催、同好会がお手伝いという形で、第1回全町水泳大会が開催されたが、当時、プールが出来て間もないこともあって、25mを完泳できる子どもや一般の方も少なかったので、水中宝探し等を取り入れて、お楽しみ会的な行事として会が持たれたのであった。

そこで、同好会では、町民に水泳を普及するためには、まず子どもからということで、同好会が中心となり、幕別小学校に水泳少年団を作ることにして、準備に取りかかった。準備委員に大上氏（現副会長）、田所氏、武田氏、木藤氏、高山氏、佐藤氏があたり、団員募集をしたところ約60名の入団があり、昭和47年6月「幕別水泳少年団」が発足をみた。更に、少年団の父母の方で後援会を組織し、その会長に大上長治氏が選ばれ就任した。

更に50年には、白人水泳少年団（現札内少年水泳団）が結成されている。少年団の指導には協会の会員が当たっている。現在、幕別少年団員は110名、札内少年団員は120名を有し、毎週1

回練習を行なっている。夏休みには、特別に期間を設けて指導を行なっている。

尚、昭和47年6月には、幕別町依田に温水プールが設立され、プールの開放期間が大巾に延びて練習量も多くなり、水泳少年団の水泳技術も高まり、町の水泳大会の参加者も年々増加すると同時に記録も伸び、十勝大会で優勝するなど上位入賞者もかなり出る様になり、子どもたちや後援会の父母の方からも、もっと練習の機会を与えてほしいとの要望が強く出されたので、当協会ではその希望を叶え選手の道を設けることにして、昭和53年に「幕別スイミングスクール」を開校した。

現在、生徒数35名で、週3回温水プールに於いて練習を行なっている。

(2) 歴代役員

- 会長 初代 平井幸男氏、平井氏は以来引き続いて会長を歴任し現在に至っている。会長歴11年。
- 副会長 初代 大上長治、大上氏は以来引き続き副会長を歴任し現在に至っている。尚、昭和50年から2人制となり、堀田孝生氏が就任し現在に至る。
- 理事長 初代 水野晃夫 昭和45年 佐藤昇氏が就任、以来引き続き理事長を歴任し現在に至る。



初代会長(現会長)

現 況

(1) 活動状況

① 昭和54年度の推進事業

- イ、記録会 6月30日(土)
- ロ、全町水泳大会 9月2日(日)
- ハ、全十勝水泳選手権大会 9月9日(日)
- ニ、全町水泳選手権大会 9月30日(日)
- ホ、水泳少年団競技会 10月7日(日)
- ヘ、マークテスト
- 救助法講習会 10月20日(土)
- ト、会員研修交流会 10月25日(木)
- チ、水泳教室講師派遣 5回(1回3日間)
- リ、町へ陳情 6月26日

協会では、全町民の水泳普及にあたるかわら施設、設備の整備、改善等を要請するため、毎年町や町教育委員会等に対して陳情を行なっている。町ではそのつど陳情を受けて、施設、設備等の整備、改善、補修を行なっているが、現在のところ充分とはいえない。今後も、プールの設置促進を計る必要がある。(少なくとも、大規模校のプール設置、南幕別地域のプール設置)、当協会では、継続事業としてこれらプールの設置、現有プールの施設、設備の整備、改善等を中心とした陳情を行な

って行きたい。

(2) 現役員

会 長 平井幸男
副会長 大上長治・堀田孝生
理事長 佐藤 昇
副理事長 渡辺貞治郎・小野寺晴雄
理 事 田所富男・藤川 治・郷司 清
高山 正・菊地国二・八代芳雄
林 幸男・佐藤 清・椿原純一
成田俊一
監 査 竹内政晃・横田美恵子



(3) 水泳少年団、スイミングスクールの活躍

水泳少年団、スイミングスクールでの練習が実り、幕別の児童生徒は、年を追う毎に十勝大会、或いは全道大会において優勝するなど、数多くの上位入賞を果たしている。

今年度、9月9日、当町温水プールで行なわれた全十勝水泳選手権大会では、なんと25の種目に優勝、6位以内の入賞種目は数えきれないほどという目ざましい活躍を見た。又優勝種目の殆どが大会新で、特に注目すべきことは、女子の200mフリーリレーで、幕別小学校チームが昨年十勝の大会記録を10秒あまり縮めて優勝し目を見はらせたものだが、今年は更にこの大会記録を10秒を上回る大会新で優勝し、驚異的な記録を樹立したことで、今や水泳王国ここにありと十勝の水泳界に大いに気をはいたのである。

一方、スイミングスクールでは、日本スイミングクラブ協議会北海道支部主催の全道長水路(50m)水泳大会に出場、昨年は上位入賞をかなり出したが、女子200mフリーリレーA級の部(8才以下)で惜しくも2位となり優勝を逸したが、今年9月9日に室蘭市で開催された同大会に小学生(A級)4人が出場し、4人組は見事200mフリーリレーに優勝するなど、メドレーリレー、50m背泳ぎなど6種目で一位、50mバタフライなど3種目で2位に入賞し、総合得点33点を取り道央勢を15点以上も引き離して総合優勝を飾ったのである。

(4) 第10回 全町水泳大会優勝者とその記録

9月2日(日) 幕別町温水プールで開催、優勝者とその記録は次の通りである。

自由型 25m 男子 2年 本保英希 25"6、4年 水越伸浩 26"2、6年 菊野大治郎 20"9

女子 1年 栗木友美 31"0、2年 松田美由樹 32"5、3年 高山千夏 18"7、4年 森富美恵 21"7

5年 森 睦 19"2、6年 葛西裕美 18"5

自由型 50m 男子 2年 中寺貴史 1'10"1、3年 小林宣宏 58"3、4年 竹内満美 39"5、5年 神鳥知兼 41"1、6年 菊野大治郎 51"1

女子 1年 瀬瀬美佐紀 1'01"3、2年 堀口友美 42"4、3年 栗木智恵 39"7、4年 小松晴美 46"5

5年 佐藤みゆき 34"1、6年 竹内洋子 34"5、中1年 高山千春 33"2
 自由型 100 m 男子 2年 早津徳人 2'39"3、3年 嶽山敏嗣 2'01"4、4年 竹内満春 1'32"8
 5年 本保裕文 1'26"0、6年 原口昭彦 2'15"9
 女子 3年 栗木智美 1'33"2、5年 佐藤みゆき 1'18"4、6年 竹内洋子 1'21"9
 平泳 25 m 男子 2年 佐々木淳 32"6、5年 早坂輝彦 44"0
 女子 3年 広瀬志保 34"6、4年 森富美恵 27"4、5年 森 睦 24"3
 平泳 50 m 男子 2年 佐々木淳 1'10"5、3年 松田裕治 1'02"9、5年 小林竜一 1'12"6、6
 年 小野直人 44"5
 女子 1年 額額美佐紀 1'07"8、3年 横田智美 51"7、4年 岩井衣子 1'00"1、5年 小笠佳奈子
 52"8、6年 田所百合香 49"8、中1年 高山千春 44"1
 平泳 100 m 男子 3年 額額裕哉 2'12"3、5年 横田昭彦 1'40"6、6年 小野直人 1'38"7
 女子 3年 横田智美 1'55"0、6年 田所百合香 1'50"6
 背泳 25 m 男子 2年 村尾英一 33"0、4年 斉藤 26"4、6年 神馬忠行 26"6
 女子 1年 早津聡子 47"0、2年 松田美由樹 37"9、3年 田村美穂子 21"0、4年 上野史真子
 28"0、5年 佐々木麻美 22"5、6年 岩井めぐみ 20"1
 背泳 50 m 男子 2年 本保英希 1'00"4、3年 松田裕治 57"3、4年 堀口朋充 46"5
 女子 堀口友美 46"5、3年 高山千夏 46"8、4年 小松晴美 52"3、5年 堀口静枝 41"5、6年
 笹原智恵 38"7
 背泳 100 m 男子 2年 嶽山敏嗣 2'03"5、女子 3年 藤川幸 1'43"3、5年 堀口静枝 1'31"3
 6年 笹原智恵 1'25"6
 バタフライ 50 m 女子 3年 田村美穂子 52"3



今後の課題

町では、町民皆泳をめざし、水泳の施設設備の充実、指導者の養成に務めている様であるが、これらの施策については充分といえないものがある。その一つは、先にも陳情の中味として述べてあるがプールの絶対数が不足していることである。町民皆泳をめざすためには、学校プール1、町営プール2ということでは到底達成できるものではないと考える。これには、まずすべての学校にプールを設

置する必要がある。このプールを地域の人たちにも解放し、まず泳いでもらうことが先決である。これが実現不可能な場合でも、少くとも大規模校と南幕地区に早急にプールを設置することが強く望まれる。

第2としては、指導員の確保である。町でも、水泳教室を開くなどして、指導員の養成に務めているが、水泳教室だけでは、泳げるようにすることがやっとなであり、水泳に対する知識や技術を高め、初心者指導、或いは水泳技術の高揚を計る力のある指導員を生み出すことは困難である。

協会としても会員研修会や講習会を行なうなどして、力を高め指導員の養成に務めているが、道水連や日水連の公認指導員の資格を得るためには、札幌などへ何日も宿泊をして講習を受け、受験しなければならず、その費用等も大きく、全部が自費であるため、指導員の資格を取ることは非常にむずかしい状態である。近年、幕別の水泳熱が高まるにつれ、指導員の必要数も増加を見ているが、資格者が不足しており、十分な指導が行えないのが現状である。町でも、指導員の養成のため積極的に取り組んでほしいものである。

第3にあげたいことは、温水プールの通年開放と、温水プールまでの交通の確保である。温水プールは、現在、5月上旬から10月下旬までの約6か月間開放されているが、プールの利用者が年毎に増えており、水泳に親しみ、技術を高めたいとの声が、夏期間にとどまらず聞かれる様になってきた今、温水プールを通年開放して町民の健康増進の一つに使う必要がある。夏場だけの解放では、折角の施設を半年あまり遊ばせることになると思う。次に、施設までの足の確保であるが、定期的に時間を決めて、幕別市街から温水プールまで町営バス等を走らせて利用の便を計っていく必要がある。勤め帰りなど泳ぎに行こうとしても交通の便が悪く利用できないので、なんとかしてほしいという要請が協会にあるが、協会としてはどうにもなりません。町としては是非考えてほしいものである。

最後になりますが、協会としても水泳に親しみ、水泳の普及に力添えをしてみたいという理解ある方々に会員に入っていただく様働きかけているところですが、皆様におかれましても水泳に対してご理解、ご協力を下さいます様お願い申し上げますと共に、加入促進に対しましてのご協力をいただければ幸と存じます。